

緑の相談所だより

—第39号—



[春号 1996. 4. 1発行 編集：旭川市緑の相談所]

講習会のお知らせ

◇草花・庭木の定植、移植と剪定◇

日時 平成8年4月14日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

定員 60名 無料

◇栽景実習◇

日時 平成8年4月28日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

定員 30名 実費1,500円

持参するもの：植木バサミ、ピンセ
ット、わりばし又は竹ばし

◇防除 - 施肥◇

庭木、草花全般

日時 平成8年5月12日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

定員 50名 無料

◇家庭菜園◇

旭川で出来る野菜の種まき、苗植え

日時 平成8年5月26日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄

定員 50名 無料

お申し込み・お問い合わせは
旭川市緑の相談所(神楽岡公園内)
☎65-5553

緑の相談所のご案内

開館時間 9時から5時まで ★入館は無料です。

休館日 月曜日(月曜が祝日の時は火曜日)

花と緑の相談コーナー、園芸図書コーナー、園芸用品販売コー
ナー、視聴覚コーナー、緑の講習会等お気軽にご利用ください。



キタコブシ

「播かぬ種は生えぬ」という言葉があります。その前に、「種か先か、植物の体が先か？」という「鶏か先か、卵か先か？」と同じ命題もあるのですがそれはさておき、播いた種について起きる幾つかの問題を考えてみましょう。

その1は 播いた種か生えぬ？

種子は播いたがいつまでたっても芽が出ない、種子は沢山播いたのに芽を出したのはほんの数本だけ・・・逆にほんの少しだけと思って播いたら生えて生えて、皆さんにはこんな経験はありませんか？

種子が芽を出すためには二つの条件があります。それは周りの環境条件と種子そのものが持っている内部条件です。環境条件としては皆さんもご存知のように、播かれた場所の土・湿度・温度などがあり極端な場合を除いては常識の範囲内で余り問題は起きないのですが、発芽適温が異なる種子を同じ所に播いた場合とか、非常に微細な種子を大きな粒の用土に播いた場合、土をかけすぎた場合、用土が病原菌で汚染されてる場合などで発芽不良がおきます。一方種子そのものに内在している条件の方では、皆さんが知らない内に失敗をする要素が幾つかあります。

★ 種子の休眠によるもの・・・一般に種子が熟する時期は秋とか乾期の始まりといった季節になることから種子が発芽して生育していくのに必要な温度や水の不足がおきます。植物の種子はこのため一定の期間休眠をして環境の良くなるまで待つ性質があります。休眠している間は、いくら手を尽くしても発芽しません。休眠を破るには温度の変化や化学物質の使用がありますが、このとき水分が重要な働きをします。湿った砂の中に低温で種子を蓄えるのはひとつの知恵です。シャクナゲ、ツツジなどの種子は休眠し難いことが知られています。

★ 種子の発芽抑制物質によるもの・・・リンゴやカエデの種子のように果肉や翼をもっているものは、この果肉や翼の中に発芽を抑制する物質が含まれています。発酵・分解によってこの物質が種子の周りから無くならないと発芽できません。ナンテンやオモトの種子などは果肉を洗い流して、マツやカエデなどは翼を落として播くと芽が出やすくなります。

★ 種子の吸水不足によるもの・・・一般に硬実種子といわれる種皮の硬いものがあります。スイートピー、イチイ、ソテツなどは硬い種皮に包まれ、さらに水を弾く物質に覆われていて、発芽に必要な水分の吸収を妨げています。このような種子はそのまま播くと発芽までに年月がかかったり発芽率が極端に落ちるので、刃物やハンマーなどで種皮を割ってから播きます。

★ 発芽に特殊な環境が必要なもの・・・発芽に必要な養分を蓄積していないランの種子は自然界では細菌の助けを受けて発芽します。このような種子の場合、普通の播種方法では発芽は殆ど望めません。人工的な栄養の供給と雑菌を取り除いた環境下で播種します。

以上、播いたけれども芽が出ない、といった事象を引き起こす種子の性質を幾つかあげてみました。そのいずれもが厳しい環境を生き延びていくために、気の遠くなるような長い年月の間に植物が身につけたものなのです。私たちはこれらの植物の知恵にたいして様々な悪知恵を働かせて、植物と向かい合い楽しんでいるのです。

春の園芸作業

春は露地の植物が息を吹き返し、室内の花は冬の疲れを癒して再び活躍を始める文字どおり回春の季節です。私達にとっては植物の若返りを手助けする季節でもあります。時期を逸することなく、適切な作業をしましょう。

鉢物の植え替え・・・落葉樹は芽の吹く前に、常緑の針葉樹類は5月中旬頃までに、アザレア・サツキは花の直後に、洋ランは新芽が伸び始めたら、室内の鉢物は花が一服したらそれぞれ植え替えの適期です。

- 要点1 用土は清潔で水掃け良く、通気性の良いものを用いる
- 要点2 用土を今までのものと異なる種類にするときは根に付いた古い用土は全て取り除く
- 要点3 鉢を大きくする場合は一回り大きい(1号上)ものにする
- 要点4 特殊な用土は特殊な植物にしか使わない(鹿沼土は酸性の好きな植物専用の用土)
- 要点5 痛んだ根、走り根を中心に全体の1/3~1/2を切除する
- 要点6 植え込んだ後は十分に灌水するが、その後は乾かし気味にする(サボテン・多肉植物は数日間灌水を控える)
- 要点7 枝や莖を切除した根の量に応じて切り返し、生育を促す
- 要点8 鉢を出来るだけ暖めて新しい根が伸びるのを助ける
- 要点9 回復の早い草物を除いて植え替え後の肥料は2週間位は与えない

庭木の定植・移植・・・果樹、庭木を含めて苗木の植え付け。落葉広葉樹は新芽が出る前に、針葉樹は遅くとも5月中旬に植え付けます。

- 要点1 気候に適しない木は植えない(ぎりぎりの環境で生育していても病気がでやすく、遠からず枯れることになる)
- 要点2 植え穴は直径・深さ共に根鉢の約2倍はとる
- 要点3 肥料を施すときは間に土を入れて直接根と肥料が接触しないように十分注意する
- 要点4 苗に付いている土は落とし、傷んだ根や走り根は切除する
- 要点5 植え付けの後根元の土は幾分高くなるようにする(後で土が落ち着いたとき地面と同じ高さになるようにするため)
- 要点6 支柱を立て幹を縛って固定する(植えた後木が動くと根付きが悪い)
- 要点7 一本苗では全長の1/3~1/2を切り返す
- 要点8 枝が何本か出ている苗では残す枝の内一番下の枝を北の方向に向ける
- 要点9 植え付けた後十分に水やりをしたらその後の灌水はしない

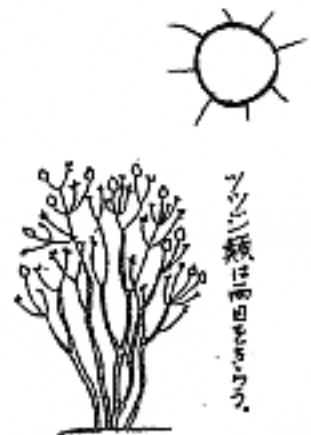
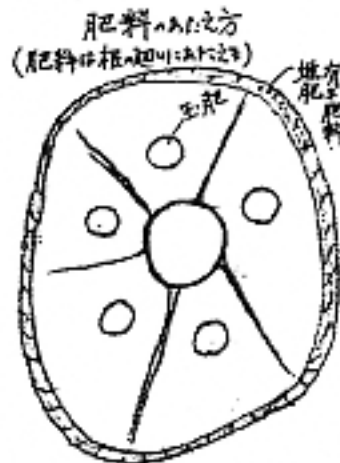
雪どけも進み庭作業の本番といった時期です。

越冬中に弱ったもの（樹勢の低下による）、病、虫害により弱って越冬してきたもの、雪害（幹折れ、枝折れ、枝抜け）により越冬途中で貯蔵養分を使い果たしたものなど、さまざまな状態のものが雪の中から一度に姿をあらわします。

このような状態におかれている庭木類は、「何が原因」なのかを「はっきりと判断し」適切な処置をすることが大切です。

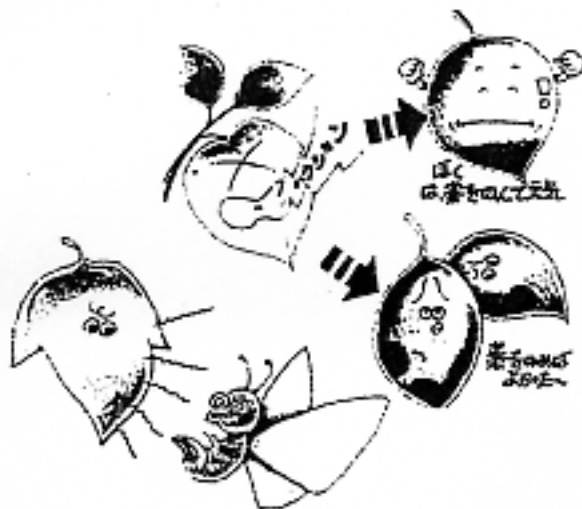
越冬中弱ってきたもの

病虫害や雪害以外で、越冬中に衰弱したものは作業時期（植え込み、移植、剪定）や、庭木類の適地の問題や、根が原因による生育不良などが考えられます。どの項目にあてはまるのかを良く判断して症状にあった処置方法を考えると良いことになります。それぞれの作業には適期、適作業があることを忘れては庭木類を枯死させる結果にもなります。



病虫害によるもの

日中の温度が12℃～13℃以下でしかも新芽が動き出すまでの間は「石灰硫黄合剤」を使った薬剤による防除が効果的です。単品で幅広い病害や虫害でもハダニ、カイガラムシなど一度に防除効果を求めるのであれば効果的な農薬ですが、逆に葉害の心配がありますので、他の農薬と混ぜて使ったり、14℃～15℃以上の高温時や、新芽の展開時期には使用しないことが条件となります。



雪害によるもの

折損部分は雪中か、雪から出た直後の乾く前に処置します。出来るだけ早い時期におこなうのが効果的で、処置方法は、「接木」の要領です。

